

麻の仲間

やさしさは想像力 

中学校での生活も半年が過ぎ、さまざまな行事や活動を通して、みなさんは少しずつ中学生らしく生活ができるようになってきました。その半面、生活になれてくると、いろいろな場面でルールやマナーに対してルーズになったり、自分中心の考え方で行動してしまい、まわりに迷惑をかけたりと、考えなければならない場面も見られます。

私たちが集団生活をする上で最も考えなければならないことは「人との関わり方」であると思います。言葉は自分の気持ちや考えを伝える方法の1つです。その使い方によっては、相手を勇気づけたり、反対に気分を害したりします。よりよい人間関係を築いていくためには、「これを言ったらどう思うかなあ」と**相手の気持ちを想像**することが大切です。もう一度、友だちとの会話やSNS等で使っている自分の言葉について考えてみてください。

エリカさんとZOOMでやりとり

総合学習のグローバルの時間に、カナダのエリカさんとZoomでやりとりをしました。エリカさんはカナダ人で、本校のALT、ティナ先生の友人です。ティナ先生の協力で今回のやりとりが実現しました。

みなさんは、習った表現を使ってエリカさんにききたいことや、エリカさんからの質問に緊張しながらも一生懸命に答えていました。Zoomでのやりとりは、対面でのコミュニケーションと違って難しい面がありますが、ジェスチャーや笑顔を意識してやりとりができていた人もいました。

自己評価シートより感想の一部を紹介します。

- とても緊張したけどとても楽しかった。あまり得意じゃない英語も少し好きになった。
- 待っている間はすごく恥ずかしかったけど、やりとりをしているときはすごく楽しいと感じた。ティナ先生も、たくさんサポートしてくださった。この経験を授業やリスニングにつなげていきたい。
- 外国の人と話す機会はなかなかなくて今回の体験はすごく楽しかった。エリカさんの貴重な時間をもらってすごく楽しい時間を過ごせた。少しおどおどしてしまっただけ絶対に忘れたくない思い出だ。
- エリカさんが笑顔できいてくれたので楽しく会話できた。英語で話す楽しさを改めて知った。
- 私たちのために時間をとってくださったことなので、一生懸命に取り組んだ。成功できてよかった。
- 笑顔でうなずきながら話をしてくれたので、緊張したけど楽しみながら話すことができた。私も、笑顔でうなずきながら話すことを心がけたい。
- ティナ先生やエリカさんを見ていると、笑顔で大きなリアクションをしながら話してくれることがわかった。話しているときとても楽しかった。大人になったら外国に行っているいろんな人と話してみたい。



第1回防災学習

10月18日、「とくしまワークショップらぼ」から講師として吉野哲一さんを招いて防災学習をおこないました。13名の川島高校の先輩もファシリテーターとして学習を支えてくれました。避難時に中学生としてできることなどについてグループで話し合い、防災意識を高めました。第2回めは、11月27日におこなう予定です。



阪神・淡路大震災に学ぶ

1995年1月7日午前5時46分、淡路島の北、地下14kmの地点を震源として兵庫県南部地震が発生した。マグニチュード7.2、神戸や阪神・淡路地域の未明の都市を直撃し、6394人の犠牲者と、24万戸の倒壊・焼失家屋を含む未曾有の災害が発生し、阪神・淡路大震災と呼ばれるようになった。

被災者は数十万人とも言われるが、ピーク時には31万6千人が避難所に身を寄せた。ほとんどの避難者は家具もろとも家を失い、倒壊した家の中からはい出し、着の身着のまま学校へたどり着いたが、引き続き起こった余震の恐怖におびえ、茫然自失状態であった。このような大災害を人々は予測しておらず、災害に対する備えもなかった。交通・通信や電気・ガス・水道などライフラインは途絶し、市・町や県の行政の危機管理体制も当初はまったく機能せず、社会は壊滅状態となり、大混乱が生じた。

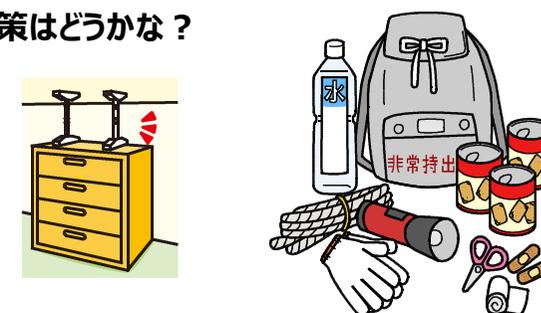
災害対策本部の設置される以前に、すでに学校へは人々が救いを求めて殺到しており、教員たちは自らも被災しながら、被災者を励まし、秩序を保った。その後全国から救援の手が差し伸べられ、のべ150万人とも言われるボランティアが駆けつけ、そのうちの40%は全国からの学生であった。壊滅状態となった人の社会を救い、立ち直らせたのは他ならぬ人のあたたかさであった。集まってきた避難住民は、恐怖のうちにも互いの無事を喜び、生命の尊さを確かめ合い、相互の助け合いの大事さを学び、人のあたたかさ感触されて復興へと奮い立った。

(防災・ボランティアハンドブックより)

家の中の防災対策はどうか？

- 家具の置き方を工夫していますか？
- 食料・飲料などの備蓄は十分ですか？
- 非常用持ち出しバッグの準備はできていますか？
- 避難場所や避難経路を確認していますか？
- 安否確認方法は決まっていますか？

(防災の手引きより)



防災学習での学びは、中学・高校卒業後も生涯活用できるものです。長い一生の中で、いつ、どんな災害に遭遇するかわかりません。生涯にわたり災害から自らの命を守れるようになり、また助けられる側から助ける側になる心構えも身につけていきたいものです。